

今月の
テーマ

金融リテラシー「総括」編

これまで1年に亘って「金融リテラシー」をテーマに様々な分野を解説してきたが、皆さんは日々の家計管理や資産形成、金融取引や保険、金利やローンの知識など、「お金と上手く付き合うために必要な知識や判断力」が身に付いたであろうか…。自分で解説しておいて言うのもなんだが“そんな簡単にはいかないよなあ”というのが私自身の本音だ。理解していたきたい主な分野について、優先的に必要な知識・情報を書いてきたつもりだ。これが少しでも皆さんの金融リテラシー向上に繋がってくれば幸いなのだが…。

仮にこの一年間の記事を読破したとしても、お金に関する判断能力がすべて備わるわけではないのが悩ましいところだ。私が解説した部分は、どちらかというと基礎および外側の部分であり、個別の事案における中身に関しては、皆さんそれぞれの取組み如何にかかっている。そういう意味でこれまでの解説は、少なくともそれぞれの生活の場面で皆さ

んが考えるきっかけになることを期待する。

「金融リテラシー」をひとつの言葉として捉えれば、難しそうな感否めないが、私たちの暮らしにおいて最も身近に位置する、とても大切な事なのである。新聞の紙面には、毎日のように詐欺や悪質商法による被害が報告されている。私は騙されたいと思っている人ほど被害に遭っているとも言われ、むしろ“いつ被害に遭うか”と怯えている人の方が慎重な判断をするのかもしれない。「最低限の金融リテラシーさえ身につけていけば防げたのに…」と考えることの多い今日この頃だ。被害に遭わないということだけでなく、「お金を貯める・増やす」ことや「物品の購入方法やローンの利用方法」、「家計管理」や「生活設計」などなど、その情報を持つ者と持たない者との格差は無限大に広がると言って良いだろう。いざれにしても金融リテラシーを身に付けるといことは特別なものではなく、今を生きる上で必要不可欠なものなのである。

Vol. 156

知恵袋

生活

生活に
何かと役立つ
連載コラム

つぶやきがんちゃん



齋藤 廣勝

(さいとう ひろかつ)

株式会社トータルライフサポート
代表取締役

- ・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
- ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
- ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
- ・住宅ローンアドバイザー
- ・金融広報アドバイザー

■親子で学んでほしい金融リテラシー
私の幼かった頃は、親からお小遣いやお年玉をもらった際に「無駄づかいをするな」、「計画的に使い」、「貯めなさい」と口酸っぱく言われたものだ。皆さんも多かれ少なかれ覚えがあるに違いない。以前にも書いたことだが、今ほど金融が発達していなかった頃は、クレジットカードやカードローンも無いため、高額なものを買うには、お金を貯めてから買うか、お店との信用貸し（月賦）で買うしかなかった。しかし、今や金融が発達し、物品を購入するにも様々な方法が存在する。お金をその場で持っていなくても商品が手に入ってしまう時代だ。無い袖は振れないと、断り文句としても使われることわざがあるが、今や無い袖が触れてしまう時代だ。これで返済が不要ならば実に素晴らしいことだが、そんなうまい話がある訳が無い。要は貯めたお金で買うのではなく、買ってから払うだけである。オマケに金利というものを乗つけた形で…。もしこれが不用意な消費行動を助長しているとすれば、便利になったとしても、金融が発達したとは言えない。便利さや「利用のしやすさ」といった反面、より高い計画性や管理能力を持たなければならぬはずだ。より複雑化している金融経済下にあつて、「金融リテラシー」を持たないということは、一歩間違えば家計の破綻を招きかねない。おこづかいをあげる立場になって、子どもにお金の大切さを話す方も少なくないと思うが、最

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

相談メニュー

- ☑ 家計の総合診断(ライフプラン)
- ☑ 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
- ☑ 住宅取得、住宅ローンの見直し
- ☑ 子どもの教育資金計画
- ☑ 年金・老後資金計画

相談料は無料です!!

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート
total life support 募集代理店

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
●営業時間/9:30~18:00(土・日・祝9:30~17:00)
●定休日/水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

● 紳士服のコナカ
● すずきクリニック ● エネオス
● 当店
● マクドナルド
● 山王十路
● 洋館の青山

詳細はホームページでもご覧いただけます。

も効果的な金銭教育は親の行動そのものかもしれない。子どもと一緒に考えていきたいものだ。

金融リテラシーの推進団体等

近年、金融庁をはじめとした関係当局や金融広報中央委員会、学校や自治体、業界団体や各金融機関、NPO団体など、多種多様な組織・団体によって、金融経済知識の普及・広報活動が行われてきた。私自身も「秋田県金融広報委員会」の「金融広報アドバイザー」として、地域・職場・学校などでの広報活動を続けてきたが、セミナーを開催する団体と、それに参加する個人の数は、極々少数と言わざるを得ず、目標とする「金融リテラシー」の到達点には程遠いと感じている。自ら参加を希望する方は、一定の「金融リテラシー」を持っている方も少なくない。一方、参加する機会に恵まれない方や、参加しようとの行動に至らない方々に多くの問題が潜んでいるような気がする。一人の社会人として経済的に自立し、しっかりと生計を立てていくためには、金融や経済の知識だけでなく、家計管理や将来の資金を確保するための長期的な生活設計が必要だ。そのためにも、各種保険やローン、クレジット、資産形成商品などの金融商品を適切に利用・選択するための最低限の基本知識(金融リテラシー)を身に付ける必要がある。しかし、それを身に付けたからといって全てが解決するとは限らない。情報の不足があったり、判断に迷ったりすることもあるかもしれないし、より専門的な知識や情報が求められることも

少なくないはずだ。自己の力で完結することが望ましいのは言うまでもないが、安易な判断や見切り発車による失敗をしないためにも、「専門家のアドバイスを活用することの必要性について理解しておくことも重要だ。専門家の中にはファイナンシャルプランナー、弁護士、税理士、司法書士、社会保険労務士など様々な分野の専門家が存在する。家計の専門家と言えば、「FP(ファイナンシャルプランナー)」が挙げられるが、「日本ファイナンシャルプランナーズ協会」では、「家計のホームドクター」として「FP(ファイナンシャルプランナー)」の利用を提唱している。

ファイナンシャルプランナーとは、金融、不動産、住宅ローン、生命保険、年金制度、相続などの幅広い知識を備え、依頼者の夢や目標を実現するよう「一緒に考え、サポートするパートナー」。

いづれにしても、自身の持つ「金融リテラシー」と併せて活用したいものだ。

最低限身に付けておきたい金融リテラシー(4分野・15項目)

金融経済教育研究会では「最低限身に付けるべき金融リテラシー」として、4分野・15項目について挙げている。それぞれを箇条書きにまとめたので参考にさせていただきたい。

【分野1】家計管理

(1)適切な収支管理(赤字解消・黒字確保)を習慣にすること

【分野2】生活設計

(2)ライフプランを明確にすること

【分野3】金融と経済の基礎知識と、金融商品を選ぶスキル

【金融取引の基本としての素養】

(3)契約をするとき、契約の基本的な姿勢(契約書をよく読む、相手方や日付・金額・支払い条件などが明記されているか、不明点があれば確認するなど)を習慣にすること

(4)情報の入手先や契約の相手方である業者が信頼できるかどうかを必ず確認すること

(5)インターネット取引の利点と注意点を理解すること

【金融分野共通】

(6)金融と経済の基礎知識(単利・複利などの金利・インフレ、デフレ、為替、リスク・リターンなど)や金融経済情勢に応じた金融商品の選択について理解すること

(7)取引の実質的なコスト(価格、手数料)を必ず確認すること

【保険商品】

(8)自分にとって保険でカバーしたい事態(死亡、病気、火災など)が何かを考えること

(9)カバーすべき事態が起きたとき、必要になる金額を考えること

【ローン・クレジット】

(10)住宅ローンを組む際の留意点を理解すること

A. 無理のない借入限度額の設定、返済計画を立てること

I. 返済を難しくさせる事態に備えること

【無計画・無謀なカードローンやクレジットカードなどの利用を行わないことを習慣にすること】

【資産形成商品】

(12)高いリターンを得ようとする場合には、より高いリスクを伴うことを理解すること

(13)資産形成における分散(運用資

産の分散、投資時期の分散)の効果を理解すること

(14)資産形成における長期運用の効果を理解すること

【分野4】外部の知見の適切な活用

(15)金融商品を利用するにあたり、外部の知見を適切に利用する必要性を理解すること

あとがき

私がひとりの実務家として家計に関する相談に乗っているなかで、つくづく思うことがある。自身が身に付けた知識・経験だけで全てを解決するのは至難の業だということだ。「金融リテラシー」をさんざん語っておいで言うのもなんだが、事が大きく複雑になるほど「こまめ来ると自分の手には負えないだろうなあ」と思うことが少なくないからだ。餅は餅屋ということわざがあるが、「物事はそれぞれの分野の専門家に任せるのが良い」という意味である。いくら素人が上手にできたとしても、専門家には到底かなわないことも少なくない。そのため、専門的なことは、それぞれの専門家に任せるのが良いという教えだ。最低限身に付けるべき金融リテラシーは勿論だが、その必要性に対する意識こそ大切なのである。最終目的は将来生活における安定と繁栄にある。

来月号は

家計のバランスシート(貸借対照表)に見るそれぞれの家計の体力を測ってみることにする。